

## 2008.4.26 県内 9 条の会交流会の報告

60 人を越える人が参加

4月26日、宮崎小に隣接する教育情報研修センターに、県内各地の主として各9条の会の世話人が集って、交流会が持たれました。

それぞれの会の規模や活動の歩みは様々ですが、その中味を話し合い、深い討議と意見を交換しようとの試みは初めてです。

それぞれの会の実情も、お互いに十分分らないまま、多くの会からの交流会を開いて経験を交換しようという要望にこたえて、ともかくも会を持つということですから、準備不足を心配しながら、一方ここから何かが生れるかもしれないという期待をこめた会合でした。

当日は土曜日の午後という、まだ仕事の終わらない職場もあり、小林、日南、延岡などの遠隔地からも、たくさんの人にお集まりいただきました。現在、分っているだけで38ある会のうち、18の会の方々が熱のこもった報告や討論を繰り広げられました。

そのあらましをお伝えしたいと思います。

### 南邦和さんの情勢報告

小泉内閣時代のアメリカ世界戦略に迎合した新自由主義経済の欠陥が、格差と貧困としてあらわになって放置され、国民生活の安定と平和の要求にはおかないの、安倍内閣時代の反動的な保守の理念をむき出しにした政治は短命に破綻し、長期にわたった自民党政治への信頼を大きく揺るがしている。

一方、イラクへの自衛隊派兵を機にした戦後平和憲法体制の危機に、2004年よりの

“9条運動”の全国的な広がりは当初の予想を遥かに越え、分っているだけで7000上回る9条の会がつくれ、国民世論を「9条を変えてはいけない」「戦争は決して人々を幸せにしない」という方向に、振れさせているようにも見える。

しかし、強引に「国民投票法」を成立させた議会は、憲法改正を諦めてはいない。その証拠に、中曽根康弘元首相を会長とする「新憲法制定議員同盟」が民主党の幹部を巻き込んで動き始めている。

私たちはこの状況を正確に受け止めて、せっかちなならず、しかし着実に運動の輪を広げていかななくてはならない。と提言され、“9”にちなんだ全国の詩人たちの“言論活動”を紹介し、自作の詩を甲斐さんの朗読で披露されました。

### 各地の9条取り組みの交流

**交流会を持つに至った経緯**: 報告、討論の口火として、県内で最初に9条の会ができた「みやざき九条の会」から、この交流会を持つに至った経緯が報告されました。

2004.6の“9条の会”のアピールとイラク派兵をうけて、宮崎でも100名近くの有志による、自衛隊の海外派兵は憲法9条を有名無実にするものとの、緊急アピールを出したのを機会に、9条の会を立ち上げるための準備に入り、翌年1月にえびの出身の映画監督黒木和雄氏を迎えて、「宮崎九条の会」の設立総会を開きました。当日は主催者の思惑を遥かに越えて、県内の各地から参加され、ロビーにも人が溢れ、最後には入場を断らねばならないほどの盛況でした。

そこでは思想信条の違いを越えて、「9条を変えない」、「9条を変えてはいけない」の一点で団結しようということ、それを個人の自覚と責任において自由に意志表明するために個人加盟とすることを確認して、賛同者の入会を求めた経緯があります。この二つの点が九条の会の原点です。

私たちはこれをもとに、各地で同様の会が自由な発想をもとに、実情に応じて会が作られていくことを期待し、それらと対等に提携していけることを望みました。それは言葉を換えて言うと、けっして県内の会を束ねるような活動はしないと、自制することでした。

しかし、今日のような形で交流会を持つ日を心待ちしていました。どの会とも蜜に手を繋ぎたいと心から考えていたからです。その理由は、三つあります。みつ

1に、このような運動をしていますと、元気な時とそうでない時が必ず出てきます。会が停滞気味な時、他の会から元気をもらいたいということがあります。

2には、他の会の活動を知り、参考にしたり、力を借りたいということがあります。これが気軽にできれば、それは大きなプラスです。

3に、大掛かりな行事を力を合わせて一緒に作ることが出来れば、それは沢山の人の目にいやでも写りますから、社会的に大きな影響力をもつことになります。私たちの終極の目的は、国民投票の時点で圧倒的な過半数を獲得し、「戦争は決して人々を幸せにしない」という、世界で最も進んだ平和思想を確固たるものにするにありま。

交流会の必要に対する自覚は今年の夏以来持ち続けてきましたが、「日本の青空」の試写会や続く宮崎、佐土原の上映会への取り組みなども重なり、延び延びになっていました。

しかし、繰り返しになりますが、「みやざき九条の会」はセンターではないということと、何しろ事務的にも連絡を十分とってこなせるだけの人手がないことが、多くの要望をいただきながら、会の準備を遅らせてきました。

全県に会員を網羅している「みやざき九条の会」の性格から、各九条の会を繋ぐ役割はやはり背負わなくてはならないものと考えています。

各会の活動報告の中から

これをうけて、みやざき九条の会の藤原代表世話人の司会で、各会3分の活動報告となりましたが、それだけでも一時間を越えるものとなります。しかも、沢山の内容を持つため、もともと無理なお願いです。

制限時間をこえての報告も仕方ありません。ここでは全てを網羅して掲載できません。特徴的な部分のみを書きますので、不十分な部分は出席者から、それぞれお聞き願いたいと思います。

各会の活動スタイルもまちまちです。「**教職員OB九条の会みやざき**」は当然会員がすべて60歳を超えています。この会は熟年者らしく、毎月9日に山形屋前で9条について不特定多数の通行人に訴える活動を中心にしていきます。

一方、「**新富憲法勉強会**」は憲法を前文からじっくりと、成立の過程をふくめて話し合う活動を毎月第三木曜日に、公民館で持っています。一人でも多くの人を誘うことが課題になっていますが、新田原基地の日米共同訓練という9条と直接かかわる問題を抱えていますので、「9条の活きた課題」と向き合うこととなります。

「**都城・きたもろ9条の会**」も毎月9日には、「アピール」賛同者の街頭署名活動を行っています。この会はその他にも「平和」団扇や書籍、ステッカーの作成と販売など多彩な活動をしているが、地域的な広がりがあり過ぎて対応しきれない悩みをかかえているという。

その点延岡の活動のスタイルは参考になる点を幾つか含んでいるように思えた。

まず、職域やサークルや地域に作られた会、その他公然化できない会を含めて、各会の代表者による「**延岡9条の会**」世話人会が作られていて、毎月例会が持たれそれぞれの動きが分る仕組みになっている。

この連合体としての会が、今年では市の中ではっきりとした市民権を得るために、「延岡市民協働センター」に登録して活動の場所を手に入れ、延岡市の最大の祭りである「お大師祭」パレードでピースウオークをしている。ここにはそれぞれの会のメンバーが参加し、7.12の「憲法セミナー」のチラシ2000枚を配布している。それでも足りなかったとの報告をいただいている。更に「**宗教者九条の和**」のメンバーは曹洞宗、天理教、カソリックキリスト者など、それぞれの宗派の正装で参加したので、ひと際人目をひいたようであり、来年からは先頭に立って欲しいと主催者から話があったという。諸宗教の糾合による活動は示唆的である。浄土真宗本願寺派は本山が九条の活動に入ることを決議しているし、カソリックは先の法王が広島原爆記念館での記念講演以来、平和運動に熱心に動き始めている。プロテスタントの諸派はもともと反権力的な伝統を持っている。これらは各地の運動に活かしたい。

「**日向・門川九条の会**」も「**こばやし九条の会**」も立ち上がりがあった。そしてさまざまな活動を工夫している。ともに若者を引き入れることに腐心している。会のサイズに見合った活動と同時に、近い地域との連携による催しの工夫も、あり得るのではと報告を聞きなが

ら感じた。

宮崎市内の「**大淀**」、「**大宮**」、「**小戸・西池**」などの会も着実に、例会や役員会などをもち、活動している報告があったが、ここでは省略する。「みやざき九条の会」については、当日の時間の関係で報告は省略するしかなかった。

現在の会が抱えている困難

会の趣旨を広め、会員を獲得していくこと。特に若い人の関心と共感を得ていく活動に、どの会も共通しているという。財政については、なんとかカンパや物品販売その他でしのいでいるように思えた。

その他このような交流の機会をどの会も求めていることが窺われ、「みやざき九条の会」にセンターとしての役割を求める意見も出た。

これに関しては、それぞれの会が横に同列の形で繋がるのが、理想の姿である。でも会の成立の経緯から、会員が全県に広がる「みやざき九条の会」が、それぞれの会の情報をもらい、それを全ての会に伝える役割ははたしたい。また、全国的な動きや講師派遣の斡旋、大きなイベントの共催などは、これまでもしてきたし、今後もっとお役に立てるよう努力はしたい。

ただ、「みやざき九条の会」も事務局に人手が不足し、十分に期待に応える力を現在は持っていない。ここに悩ましい問題がある。なんとか「連絡会」を作る方向で検討するというのが、今日のところの、精一杯の回答とするしかない。

なお、連絡会を作ることになったら、地域と会の大きさを勘案して、力をお借りしたいと思います。その節はよろしく願います。

#### 7.12「第6回憲法セミナー」

これについて、「みやざき九条の会」の事務局から説明がありました。ここでは要点のみを拾い上げます。

- ・ タイトル：人間らしく生きる…憲法9条と25条
- ・ と き：2008/7/12 13:30
- ・ と ころ：宮崎市民文化ホール
- ・ 講 師：大江健三郎、暉峻淑子、湯浅 誠
- ・ 東京の「九条の会」が直接主催するものです。
- ・ 宮崎の諸会は共催となります。
- ・ 参加費：1000円（学生500円）
- ・ 参加整理券を直接東京に申し込むこととなります。
- ・ お金は整理券を持って当日会場で支払ってください。
- ・ 九州各県からも参加が予想されます。整理券がないと、入場が後回しとなり、一杯だと入れません。整理券を手に入れてください。詳しい事は、チラシに書いてありますが、それぞれの会か、みやざき九条の会に問い合わせてください。

なお、東京から来るスタッフは数名です。当日は会場の混乱が予想されます。お手伝いをお願いするかもしれませんが、チラシ(A4)、ポスター(A3)\*など必要があれば、みやざき九条の会事務局に問い合わせてください。

\* 必要な枚数は、コピーするか、又はこちらに要求してください。